

奈良時代の漆器の復元

平城宮跡発掘調査部

身分を示す食器 奈良時代の雰囲気伝える『日本霊異記』には、都に住む貧しい女王が、仏の助けによって親類の皇族たちに立派な食膳を供する話がある。ここでは香りのよい食物は、金属や漆の立派な器によって供されている（中巻第14話、34話）。

今日、天平食の復元は各地で試みがあり、豪華な食膳を復元している。しかし、従来の復元は大きな問題を含んでいる。すなわち、食品自体は豪華でも、これを盛りつける器がすべて土器（須恵器・土師器）であり、さらに、食膳具も粗末な木の箸を使用していること。

身分によって食品の内容に大きな差をつけても、食器・食膳具については変わらないのである。これは、身分秩序が厳しい奈良時代の実態とはかけ離れた復元と言わねばならない。

時代は降るが、10世紀に成立した『延喜式』の「内匠寮」の規定や、「大膳上」にみる宴会雑給の規定などをもとにすると、平安宮の宮廷では銀器（天皇・中宮など）、朱漆器（三位以上）、黒漆器および緑釉陶器（五位以上）、土器（六位以下）という身分に基く区分が想定できる。朱漆器などがまだない奈良時代にあつては、食器の区分は金属器（天皇など）、黒漆器（五位以上）、土器（六位以下）という三段階だったのであろう。冒頭の説話は、金属器や漆器が上流階級の食器だった奈良時代の実情を端なくも伝えていると思う。

長屋王の食器 本年、研究所は日本経済新聞社、奈良そごう美術館などと共催で「長屋王 光と影」展（1991年2月20日～5月6日）を開催するにあたり、その展示の一つとして長屋王の食膳を復元することとした。ここでは、上述の諸点を踏まえて食事内容だけでなく、食器も彼の地位にふさわしいものとした。

長屋王の最高官職は左大臣正二位。しかも、木簡に「長屋親王宮匏大贊十編」などとあるように、王家の内部では天皇にも準ずる地位との認識があった。したがって、ここでは金属器と漆器の二組を製作した。

金属食器は、正倉院宝物の佐波理の重椀、水瓶、匙などを参考にした。佐波理は銅と錫の合金であるが、表面は黄白色を呈し、本来は黄金の器に凝せられていたのであろう。司馬遷の『史記』『孝武本記』などには、黄金の器による飲食は永遠の命をもたらすとあり、唐代では黄金の器は皇帝などの食器であった（『唐儀制令 巻18』）。

今日伝来する、または出土する佐波理の容器は、鑄造した器を金工用の横軸ロクロにかけて削り仕上げをしたもの。しかし、現在の技術では、銅と錫の合金を切削工程にかけると粘性不足から破損し、製作不能ということで、銅を叩き伸ばして成形しロクロ仕上げの後に、最終的に鍍金する方法で製作した（担当は、京都市水谷醒洋氏の工房）。

漆器の特徴 奈良時代において、漆器は大変な貴重品であり、これを反映して出土量も少なく、たとえば、平城宮跡で出土した漆器は9世紀代に入るものを含めても今日まで150点前後にしか

ならない。従って、出土品のみではすべての器種を復元することはむずかしいが、古代の漆器は以下の大きな特徴があり、これを追求することで復元が可能である。

- a 漆器には佐波理の椀など、同時代の金属器と共通する器種が少なくない。たとえば、円環つまみの蓋がつく稜碗などはこの典型である。食器だけでなく、食膳具の匙も同じことが指摘できよう。これは、漆器の製作者が金属器の一部を模倣した事を物語る。
- b 漆器には、同時代の奈良三彩と共通する器種が少なからず存在する。奈良三彩は、須恵器の工人が中国本土に赴き、彼の地の唐三彩の技術を習得して製作したといい（田中琢 1984）、その器種は須恵器のそれを通用したという。これは言い換えると、漆器は須恵器の一部と器種が共通することを意味する。
- c 漆器の一部は、ロクロ挽きの合子など、いわば木器に特有とも言うべき器種を含む。

これらに含まれない器種もあるようだが、奈良時代の漆器は基本的にはこのa～cから成立しており、この中から食器にふさわしい器種を選んだ。

ところで、先に引いた大膳職の宴会雑給（『延喜式』）では、五位以上の貴族に給する食糧の種類が31～30種。これに対し、六位以下は16種と大差がある。この支給食糧の違いは、いわゆる皿数の違いとして表われているのであろう。

長屋王の食膳における器の数は、これをもとに最大30種程度と考え、やや晴れがましい食膳、日常の食膳を想定して匙、箸の食膳具を含めた14器種計32点を製作した（製作は、富山県庄川町小西久夫氏の工房が担当）。

この試みによって、上は天皇・貴族から、下は下級官人・庶民にいたるまで、等しく粗末な食器・食膳具を用いたとする従来の常識を排し、奈良時代像の正しい認識に少しでも近づけたと思う。今後も機会を得て、奈良時代漆器の復元につとめたい。なお、金属器・漆器ともに製作工程のビデオを製作した。

（金子裕之）